■（８２）金環日食の太陽と月のようになりたい！

日食グラスをかけて金環日食を見ながらふと疑問がわいてきた。数十年前の子どものころ、宇宙の偶然で、地球から見える太陽と月の大きさは同じ、と習った。ならば、ぴったり重なれば、金環部分はできない？太陽は下敷きやススをつけたガラスを通して観測していたが…。月と地球の距離は常に一定ではないらしい。下敷きなどは危険な光線をわずかでも通してしまうかもしれないので使用禁止だそうだ。科学が進めば、常識も変わる。

新聞の印刷技術も大きく進歩している。朝日新聞の夕刊（関西）のカラー紙面がこのほど、国際的な新聞カラー印刷品質コンクールで、「アジア一位」に選ばれた。その昔、新聞を持つ手は、読み終わるころうす黒くなる時代もあった。いまはインクで汚れることはない。さらに電子新聞の時代を迎えた。パソコンやスマートフォンの画面で見る掲載写真はさらに鮮やかになった。新聞を作る技術者にとって、技術開発に終わりはない。

記事だって、時代の変化に遅れたら、読む人は消えていく。記事の長さは？わかりやすい表現は？日食の太陽と月のように、読者と重なりあえるように試行錯誤しています。

（山）